

令和3年度 自己評価表

愛媛県立三島高等学校
学校番号 (2)

教育方針	創造性豊かな思考力・判断力と実践力を身に付け、自他の人権を尊重し、国際的視野に立つ社会的な連帯意識を培うとともに、個性を伸ばし、誠実で剛健な風風を養う。	重点目標	「自ら学び、鍛え、考える力の育成」 1 自主的な学習態度の確立 2 基本的な生活習慣の育成 3 人権尊重意識の高揚 4 部活動・ボランティア活動への積極的な参加
------	--	------	--

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学習指導	教科指導の充実	実験・実習等体験的な授業も取り入れ、分かるまでの個別指導を実施する。	A	実験や実習の回数は91.4%の生徒ができておりと評価しており、また、授業内容についても85.7%の生徒がよく理解できたと回答し、昨年度より高評価を得ている。	授業内容をよく理解できていると回答した生徒の割合は50%程度で、今後も、ICT機器を利用した視覚的教材の使用など、さらに工夫が必要である。
		特に1年生に学習方法や授業への取り組み方の細かな指導を行い、学習態度の基本を徹底する。	A	学習状況に応じて、予習や復習の方法を、丁寧に指導し、基礎・基本の定着に努めた。95%の生徒がそれを実感している。	家庭学習習慣を確立させることで、学力の向上に結び付ける。地道な取り組みが成果につながることを実感させる。
	保護者との連携	生徒の学習状況が十分に理解できるような資料等の工夫・改善に努める。	B	学習状況の経緯について、保護者による理解が十分に得られていない。	学習指導の内容や生徒の状況が把握できるような説明を、教科ごとに心がける。
	家庭学習の充実	計画的に家庭学習に取り組めるよう合理的な量と質の課題を講じる。 家庭学習時間を、普通科180分以上・商業科90分以上となるよう指導する。 普通科 A:180分以上 B:170～180分 C:160～170分 D:150～160分 E:150分未満 商業科 A:90分以上 B:80～90分 C:70～80分 D:60～70分 E:60分未満	普通科 C 商業科 B	計画的に家庭学習課題が与えられていると回答した生徒は、79.6%である。一方、宿題や予習復習ができていない生徒もいる。 普通科の家庭学習時間平均が約160分、商業科が80分であった。普通科I類型の学習時間が極端に少なくなっている。	宿題や予習復習ができていない生徒もあり、量のとらえ方には差があるので、習熟度に応じた適切な量を計画的に与える必要がある。 分かる授業、課題の見直しなど生徒の実態と合致させていく必要がある。
生徒指導	個別指導の充実	三者面談・個人面談を年間6回以上実施するとともに、日常的な生徒との対話や積極的な声掛けを重視する。 A:6回以上 B:5回 C:4回 D:3回 E:2回以下	A	定期的な面談に加え、必要に応じて面談ができている。担任以外にも学年主任や課長が面談に加わることもある。	担任が面接をする時間確保については配慮が必要である。
	生活習慣の確立	基本的な生活習慣の確立によって、出席率を98.5%以上にする。また、5分前登校時の指導者を年間のべ200名以下とする。 A:98.5%以上 B:98.4% C:98.3% D:98.2% E:98.1%以下 A:200名以下 B:201～220名 C:221～240名 D:241～260名 E:261名以上	出席率 E 5分前 E	コロナ禍で出席停止の生徒が多い中、出席率は98%程度となっている。休むことへのハードルが低くなっているのが気がかりである。5分前登校時の指導については数値目標を超えたが継続した指導をしていきたい。	コロナウィルスが落ち着くことを期待したい。クラス担任、教科担任、部活動など、学校生活のあらゆる場面で生活指導が必要である。
		平素から端正な身だしなみを意識させ、身だしなみ指導合格率95%を目指す。 A:95%以上 B:94% C:93% D:92% E:92%未満	B	1月末までの身だしなみ合格率は94.3%であり、昨年度より合格率は上がった。コロナ禍でマスクの着用や換気を行いながら体調管理についても意識させたい。	身だしなみ指導の時だけでなく、日頃から継続した指導をしていきたい。また、不公平感を与えないように、教員の意識統一にも取り組む。
	保護者との連携	普段から家庭との連携を密にして、保護者との共通理解に努める。	A	常に家庭との連携を図り、何かあれば電話連絡ができている。	今後も共通理解に努めていきたい。
	交通安全指導の充実	登校時の交通安全指導を充実させ、校外での交通安全についての意識の高揚を図る。	B	登校中の自転車と車の接触事故は数件あったがいずれも軽傷であった。	今年度は中予地区で高校生の死亡事故があったが、事故を未然に防ぐために交通ルールの遵守やマナーの向上、ヘルメットの着用など、今後もいろいろな場面を通して、交通安全意識の高揚を図ってきたい。

領 域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
進路指導	就職指導の充実	就職希望者の就職決定率を100%にする。 就職決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	B	本年度の就職内定率は97.5%であった。	就職試験や就職後に必要な基礎学力、職業観を身に付けさせるとともに、仕事のミスマッチを防ぐ。
		商業科では各種検定において、1年生3級・2年生2級をそれぞれ2種目以上取得させる。3年生は、1級を1種目以上取得させる。3学年全体での取得率平均で A:85%以上 B:70～84% C:60～69% D:50～59% E:50%未満	B	1年生93.9% 2年生75.0% 3年生82.9% 全体で83.9%の達成率である。 コロナ禍で指導時間が限られたことも取得率減少の要因となった。	・制限される指導時間の工夫 ・継続的な学習への取組強化 ・適切な課題配布、家庭学習時間の確保 ・検定直前対策（全体指導、個別指導）の強化
	進学指導の充実	進学希望者の進学決定率を100%にする。 進学決定率 A:100% B:90～99% C:80～89% D:70～79% E:70%未満	B	1月末現在、進学希望者の約70%が総合型選抜および学校推薦型選抜で進学先が決定している。残りの生徒たちは、国公立大学や私立大学の一般入試に向けて学習に励んでいる。	少しでも自分を高められるような進路選択を生徒たちがすることができるように、進路ガイダンスや個人面接等を通して、自己の進路に対する意識改革をさせていきたい。
		国公立大学の合格者数60名以上を目指す。 国公立合格者数 A:60名以上 B:45～59名 C:30～44名 D:15～29名 E:14名以下	C	1月末段階で総合型選抜および学校推薦型選抜による合格者10名であることを考えると、数値目標を達成することは非常に難しい。	生徒の意識改革と思考力・表現力の向上が必要不可欠である。学習時間の確保による基礎学力の定着、そしてディベート、グループディスカッション、また小論文に取り組む活動を一層充実させて、思考力・表現力の向上を図る。
特別活動	学校行事の充実	クラスや学年の枠を超えた学校行事を通して、人間関係の構築を積極的に図る。	A	制限下ではあったが、グループマッチ、体育祭、文化祭等の各種行事を通して生徒たちは様々なことを学ぶことができ、人間的に成長することができた。	来年度以降も影響は残ると考えられるので、適切な対策をして生徒たちが貴重な体験をできるように工夫し、さらには学校の魅力化に取り組んでいきたい。
	部活動の充実	文武両道を旨とし、部活動加入率を80%以上に にする。 A:80%以上 B:78～79% C:76～77% D:74～75% E:74%未満	A	多くの生徒が部活動に所属し、文武両道を果たすべく日々努力することができた。部活動に加入している生徒が様々な場面で中心となって活動してくれている。	勉学と部活動を両立できるような環境を今まで以上に作っていかねばならないと考えている。また、魅力ある部活動を行うことで生徒数の確保にもつなげていきたい。
		県高校総合文化祭への出場4部以上、県高校総体への出場170名以上を目指す。 A:4部 B:3部 C:2部 D:1部 E:0部 A:170名以上 B:160～169名 C:150～159名 D:140～149名 E:140名未満	高文祭 A 県総体 A	各部の熱心な活動の成果で、高文祭・県総体ともに多数の出場を果たした。特に、県総体には210名の選手が出場し、久しぶりに200名を超える出場者となった。	生徒数の減少に伴い部員数の確保に苦労している部活動も見られるようになってきている。引き続き生徒たちが日々の取り組みの成果を発揮して目標を達成し、成長につなげられるようにしっかりと指導していかねばならない。
		全国大会出場延べ10部以上を実現する。 A:10部以上 B:9部 C:8部 D:7部 E:6部以下	C	国体の中止などもあったが、多くの部活動が全国大会出場を果たした。	目標を達成できるように、日々の取り組みを大切にしていきたい。
	ボランティア活動の充実	ボランティア活動に力を入れ、地域社会との交流を積極的に行う。ボランティア参加延べ人数70名以上を目指す。 A:70名以上 B:60～69名 C:50～59名 D:40～49名 E:39名未満	A	コロナ禍でも生徒たちは積極的に地域社会との交流に参加し、貴重な体験をすることができた。	十分な対策を行い、可能な限り生徒たちが貴重な体験をできるようにしていきたい。
業務改善	職場環境の整備と適切な勤務時間	職場環境の整備を図り、時間外勤務上限月45時間・年間360時間以内を目指し、時間外勤務時間が月80時間を超える教師の割合を「0」にする。 A:0% B:1～5% C:6～10% D:11～15% E:16%以上	E	本校では、約20%の教員が月の時間外勤務時間が80時間を超えていた。100時間を超える者も数名いるので、健康状態等が心配される。	勤務時間と仕事量が釣り合っていない。勤務日の残業や週休日（土日祝日）の時間外超過が不可避である現状を鑑みながらも、校務等の整頓や合理化により、勤務の均一化を図り、目標達成に向けて努力していきたい。

※評価は5段階(A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった)とする。